命取其食、蒸餅上不拆作十字不食、食日萬錢猶曰無下箸處、人以小紙爲書者勅記室勿報、劉毅等數劾奏曾侈忕無度、帝以其重臣一無所問、

〔瓦礫雜考下〕まんぢう

本草蒸餅の附方には、饅頭餅とも書り、蒸餅とおなじ物なれども、中に餡を入るゝを饅頭といふ、餡はもと獸肉また蔬菜などをいるゝもの也、こゝには肉を用ひしことは聞えざれども、菜をば包みたることはありと見えて、七十一番職人盡に、さたうまんぢうさいまんぢうといふことあり、さたうまんぢうはよの常の饅頭なるべし、○中略饅頭のもとの形を考ふるに、かの職人盡の繪に書たるは、今の腰だかまんぢうに似たり、そも圓く作りたるものなるべけれど、蒸籠に入て蒸す故に、下は平になる理なり、これを形圓からむとおもふは、墳を土饅頭といひ、茜麻(ケイマ)の實を縈(ケイ)饅頭、薜荔の實を木饅頭といへるをもてなり、

〔七十一番歌合〕五十七番　右　てうさい○歌一首略

いかにせむこしきにむせる饅頭の思ひふくれて人の戀しき

〔名菓秘錄初編〕目錄

一吉野饅頭　一旭饅頭　一中華饅頭　一麓饅頭　一腰高饅頭　一薯蕷饅頭

一水蟾饅頭　一山吹饅頭　一葛饅頭

〔一話一言一〕桔梗屋菓子銘

天和三癸亥年十二月十九日、桔梗屋菓子銘、

京御菓子司本町一丁目北頰　桔梗屋河内大掾○中略

御所まんぢう品々